平成14年度

村内遺跡

2003

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

例　　言

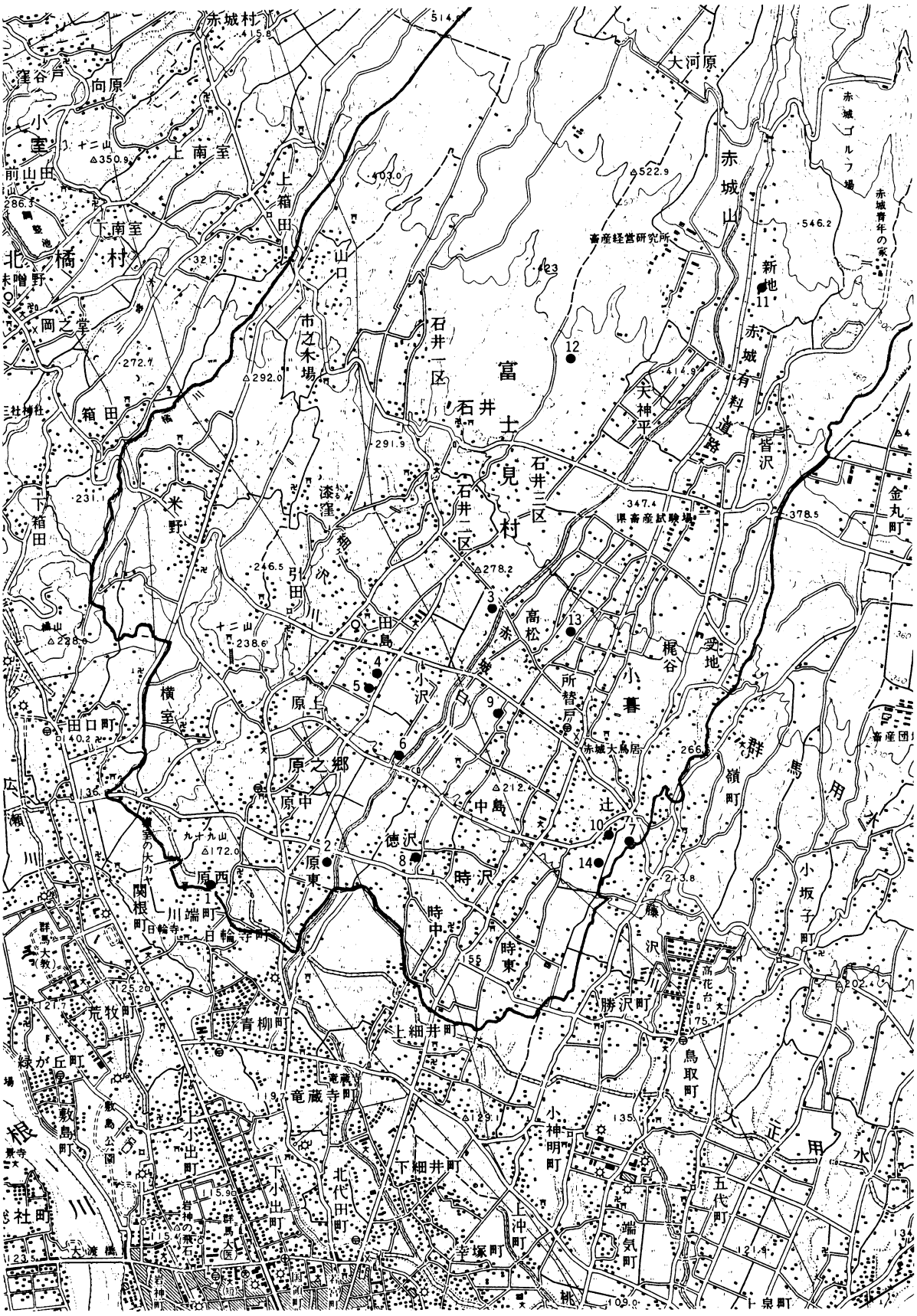
1．本報告書は、平成14年度国庫補助事業として行われた村内遺跡発掘調査（試掘確認調査）報告書である。
2．調査体制は、教育長　浅井多津男、事務局長　阿佐美健一、事務局次長　樺澤　元治、社会教育係長　小渕　博文、主事　福田　貫之（担当）である。
3．調査に要した経費は、国宝重要文化財保存整備費補助金、群馬県文化財保存事業費補助金、村費があてられた。
4．各遺跡の所在地、調査期間等は本文中に記した。
5．本報告書の編集・執筆等は福田が行った。
6．本発掘調査における記録資料や出土遺物は富士見村教育委員会事務局で保管している。

凡　　例

1．第１図は国土地理院発行１:50000地形図「前橋」を用いた。調査地の地形図は富士見村役場発行１：2500原形図を１：5000に縮小し用いている。
2．地形図の方位は上が北である。トレンチ配置図の方位は一定していない。
3．トレンチ配置図の縮尺は一定していないが、各図に縮尺を表記している。
4．出土遺物図の縮尺は⅓、¼である。縮尺は図中に示した。
5．時沢上里遺跡の出土遺物については、来年度報告する予定である。

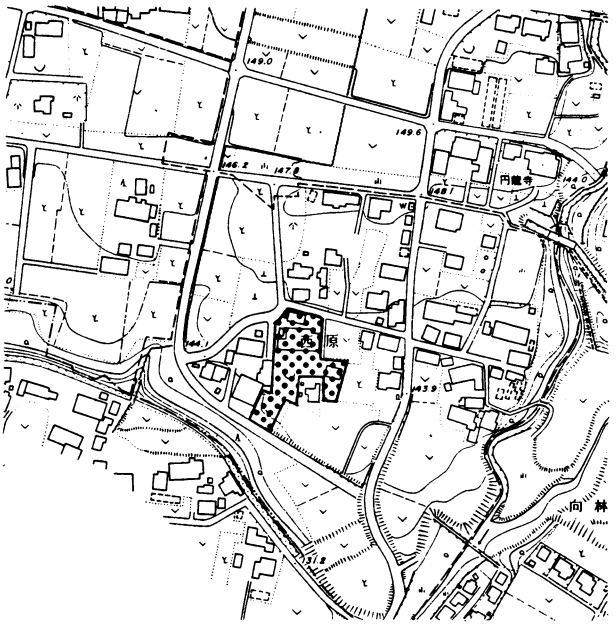
目　　次

例言・凡例
調査地の位置……1
1．原之郷西原……2
2．原之郷白川Ｂ遺跡……3
3．石井下白川……5
4．原之郷大谷地……6
5．原之郷大谷地……7
6．小沢鍛冶原遺跡……8
7．小暮寺間……9
8．時沢上里遺跡……10
9．小暮六万坊……11
10．小暮辻清塚……12
11．赤城山竜ノ口……13
12．石井上城楽遺跡……14
13．小暮虱久保……15
14．小暮孫田Ｂ遺跡……16
写真図版


赤城村
大河原
向原
小室
上南室
上箱田
下南室
橘村
山口
市之木場
石井一区
富士見村
石井二区
石井三区
天神平
赤城有料道路
皆沢
箱田
米野
漆窪
引田川
田島
高松
赤城
小沢
原上
横室
田口町
原之郷
原中
原東
原西
関根町
川端町
日輪寺町
中島
徳沢
時沢
時中
時東
辻
所替戸
小暮
梶谷
受地
嶺町
群馬用水
小坂子町
勝沢町
鳥取町
上細井町
青柳町
荒牧町
竜蔵寺町
小神明町
下細井町
北代田町
上沖町
五代町
端気町
幸塚町
桃
下泉町
大正用水
赤城山
新地
赤城ゴルフ場
赤城青年の家
畜産経営研究所
県畜産試験場
赤城大鳥居
畜産団
群馬大教
群馬大医
岩神の飛石
大渡橋

第１図　調査地の位置

1．原之郷西原



第２図　原之郷西原

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字西原554外

調査原因

共同住宅用地

調査期間

平成14年５月８日

開発面積　　2,174m²

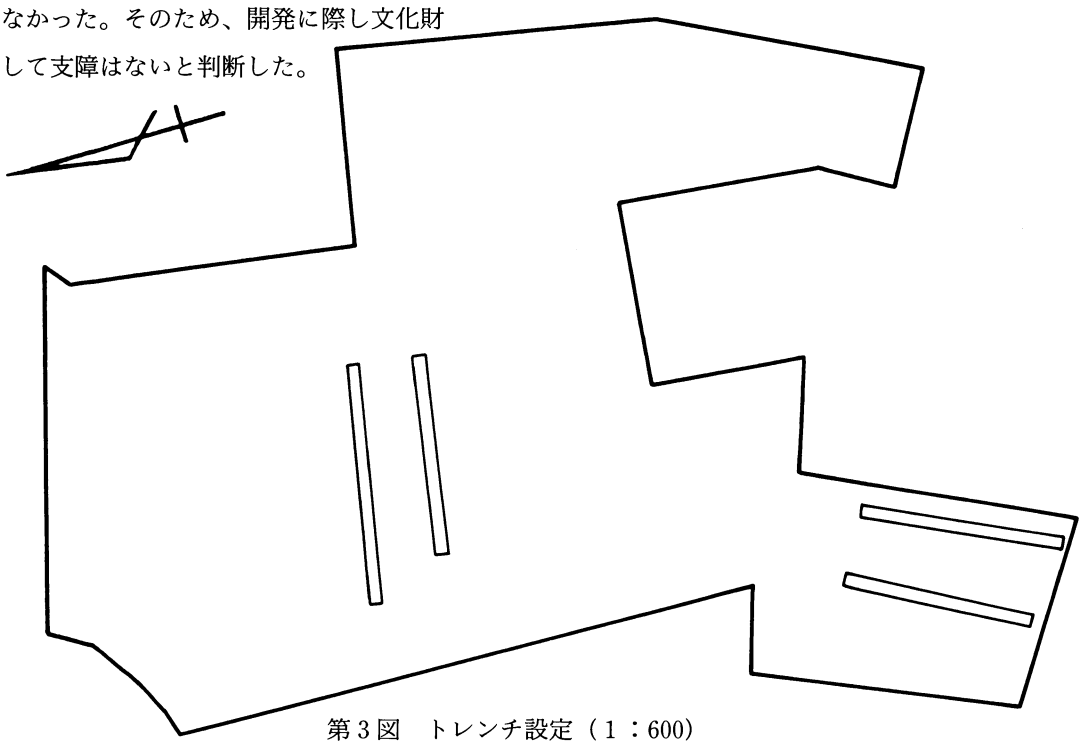
調査面積　　81m²

調査の経緯

調査地は周知の遺跡地ではなかったが、東方に旭久保遺跡（平成７年度調査、古墳時代及び奈良・平安時代住居跡）、北方に原之郷善養寺遺跡が所在し、周辺からは土師器片が採集されることから、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査地内には既存建築物があったため、トレンチは４本のみ設定した。その結果、顕著な遺構・遺物は検出されなかった。そのため、開発に際し文化財保護として支障はないと判断した。



第３図　トレンチ設定（１：600）

2．原之郷白川Ｂ遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字白川821番１外

調査原因

宅地分譲用地造成

調査期間

平成14年５月15日

開発面積　　1,469㎡

調査面積　　166㎡

第４図　原之郷白川Ｂ遺跡

調査の経緯

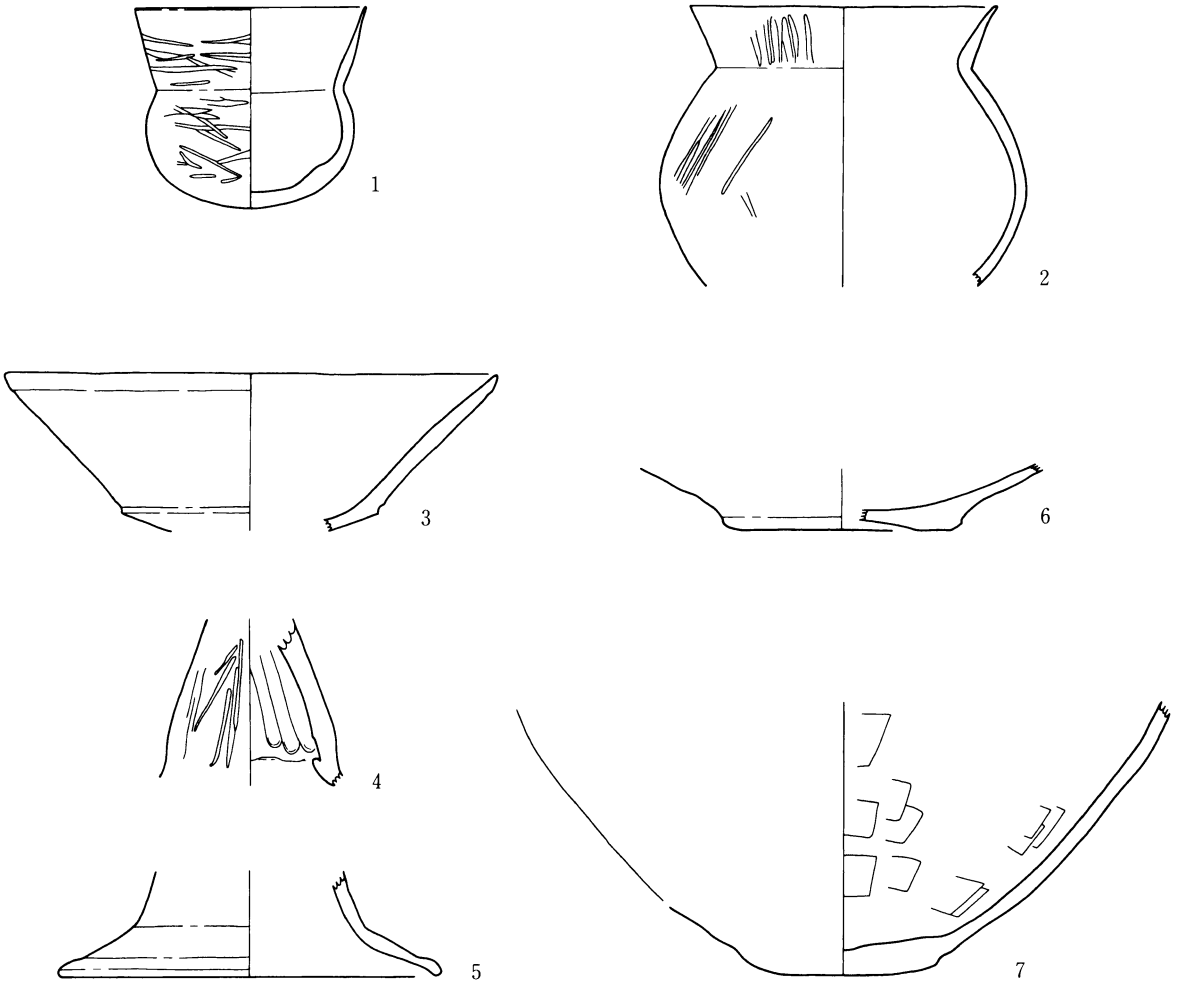
調査地の南方に周知の遺跡である原之郷下白川遺跡が所在する。周辺では、土師器を中心とした遺物が採取される。しかし、数度の試掘調査から、周辺は赤城白川の氾濫による砂礫層が厚く堆積し、遺物・遺構が検出されない地域である。今回の試掘調査は赤城白川に近接するものの微高地状の地形であり、遺物・遺構の存在する可能性があったため行った。

調査の結果

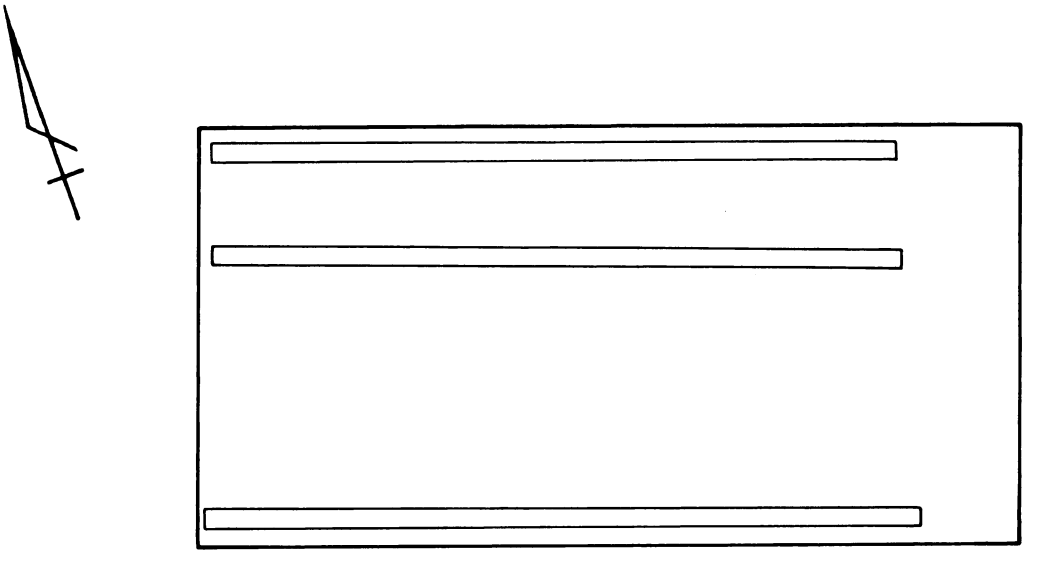
調査地の地形に合わせて３本のトレンチを設定した。その結果、現地表下約60cmまでは砂層が堆積していたが、その下には層厚約20cmの Hr-Fp（６世紀中葉、榛名山二ツ岳形成時に噴出）を含む黒褐色土層が確認された。精査したところ、明確な遺構は検出されなかったものの、４世紀末から５世紀初頭にかけての土器片が確認された。Hr-Fp を含む黒褐色土層以下は、再び砂層が堆積し遺物の出土は見られなくなる。この結果をもとに、埋蔵文化財の保護について事業者と協議を行い、盛り土による現状保存で合意を得て、「原之郷白川Ｂ遺跡の保存に関する協定書」を締結した。今回の試掘調査により、赤城白川の氾濫地域であっても微高地状には僅かではあるが遺跡が残されていることが判明した。

出土遺物に関しては、以下のとおりである。１は、口径9.1cm、器高7.9cmを測る小型坩である。口縁部から底部にかけて¾残存している。外面は口縁部から胴部にかけて横撫でした後、磨きを施す。内面は指による撫でを施す。２は、復元口径12.0cmを測る甕である。口縁から胴部にかけて⅓残存している。外面は丁寧な磨きを施す。３～５にかけてはそれぞれが別個体と考えられる高坏の口縁部、脚部、裾部である。３は復元口径19.3cmを測る有段口縁であり、体部に明瞭な陵を有する。口縁部は横撫でを施す。口縁部から体部にかけて⅓残存している。４は、内面に明瞭な指撫でが観察される脚部である。外面は磨きを施す。⅓残存している。５は、やや外反しながら開く裾部である。復元底径は14.7cmを測る。¼残存している。６、７は甕の底部である。６は、やや上げ底であり、底部に作り出しを有す。底部から体部下半にかけて¼残存する。

7は、外面は横撫で、内面は箆による撫でを施す。底部に作り出しを有す。内外面に赤彩痕が観られる。胴部から底部にかけて$^{2}/_{5}$残存している。



第5図　出土遺物（1：3）



第6図　トレンチ設定図（1：500）

3．石井下白川

所在地

勢多郡富士見村大字石井字下白川1067番

調査原因

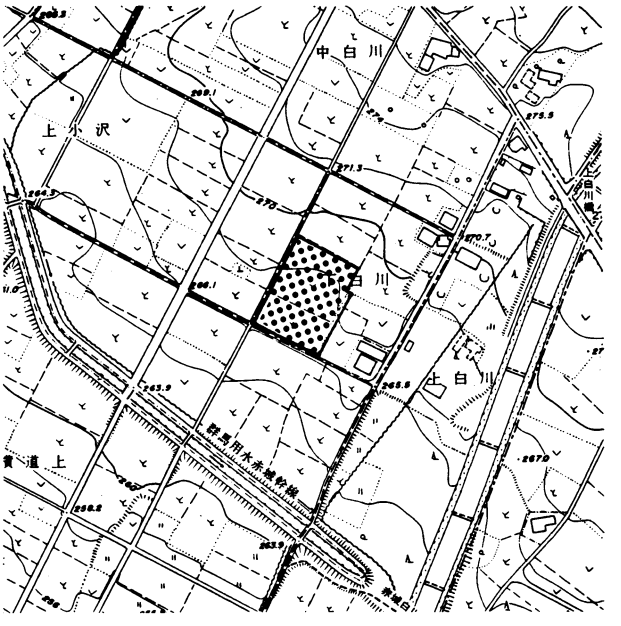
宅地分譲用地造成

調査期間

平成14年６月６・７日

開発面積　　3,090㎡

調査面積　　323㎡



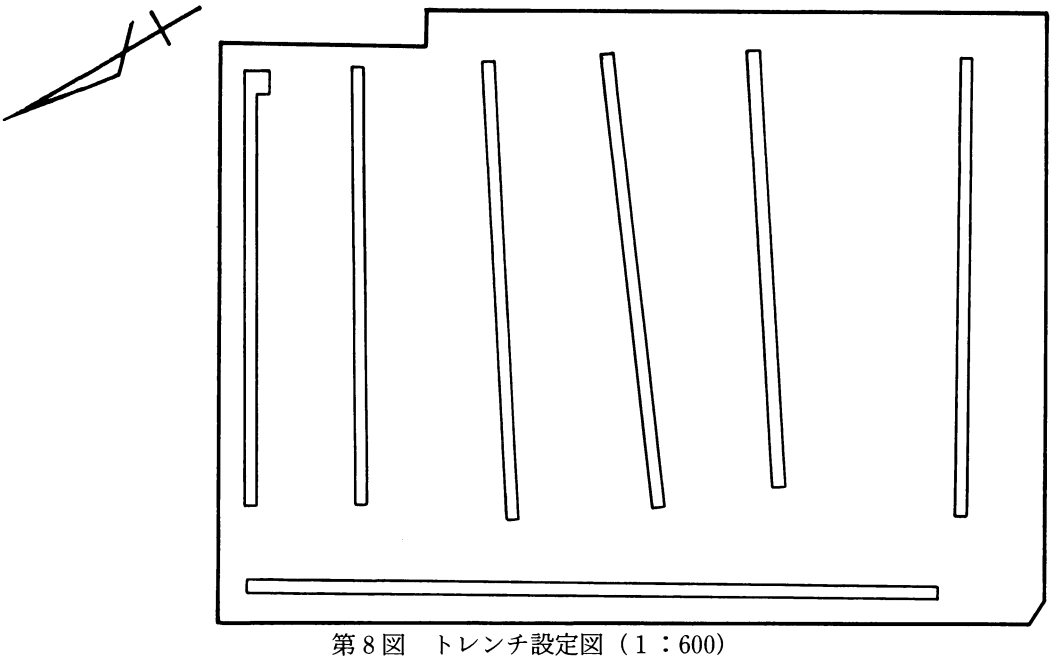
第７図　石井下白川

調査の経緯

調査地は周知の遺跡である八幡古墳の北方にあり、現地踏査を行った際に若干の土器片が確認されたことから、試掘調査を実施した。

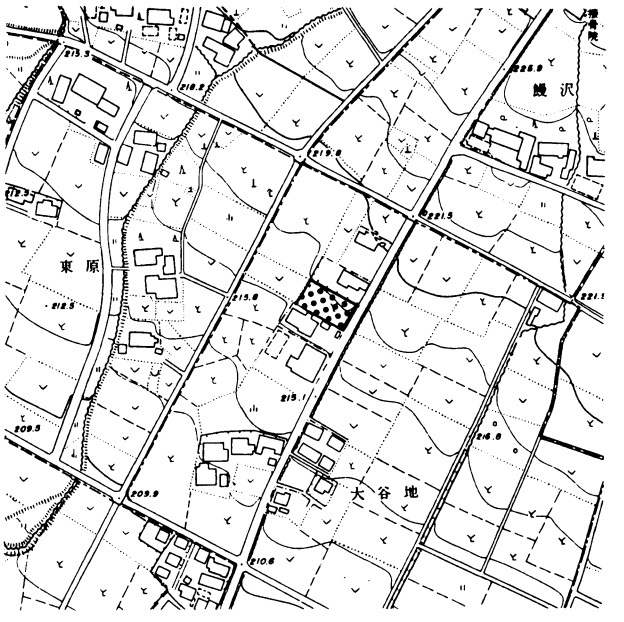
調査の結果

調査地の地形に合わせて７本のトレンチを設定した。その結果、若干の遺物は確認されたが赤城白川の氾濫による砂礫層が厚く堆積しており、遺構は検出されなかった。よって、開発に際し文化財保護として支障はないと判断した。



第８図　トレンチ設定図（１：600）

4．原之郷大谷地



第９図　原之郷大谷地

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字大谷地2385番

調査原因

共同住宅建設

調査期間

平成14年６月13日

開発面積　723㎡

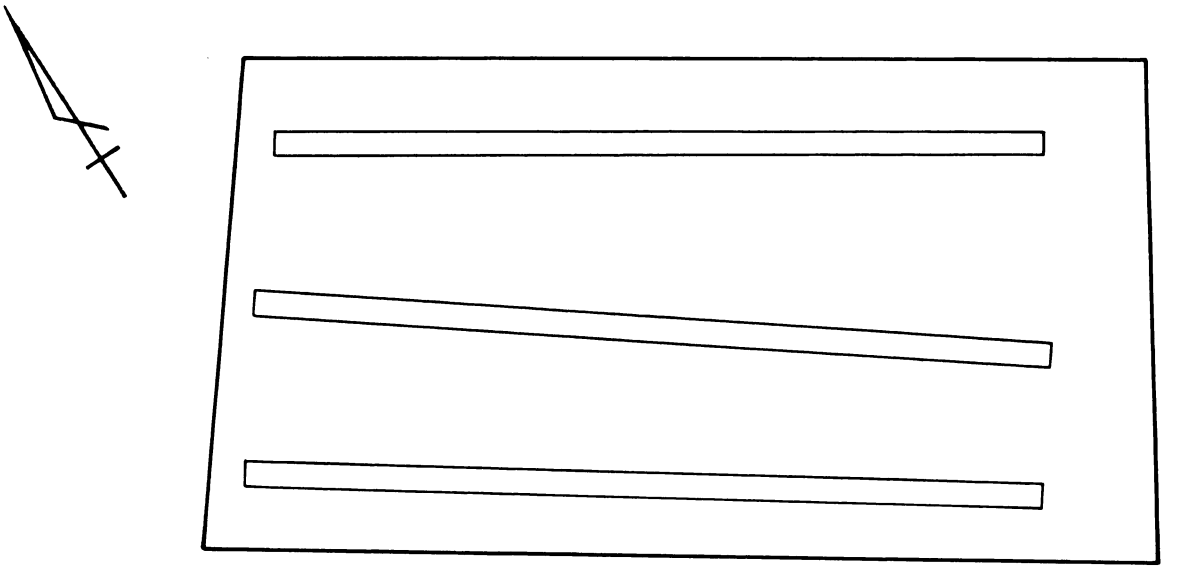
調査面積　113㎡

調査の経緯

調査地は周知の遺跡ではなかったが、現地確認の際に縄文時代前期の土器片が散布していたため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて、３本のトレンチを設定した。現地表下約30cmでローム層となるが明確な遺構・遺物は見られなかった。よって、開発に際し文化財保護として支障はないと判断した。



第10図　トレンチ設定図（１：300）

5．原之郷大谷地

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字大谷地2380番１

調査原因

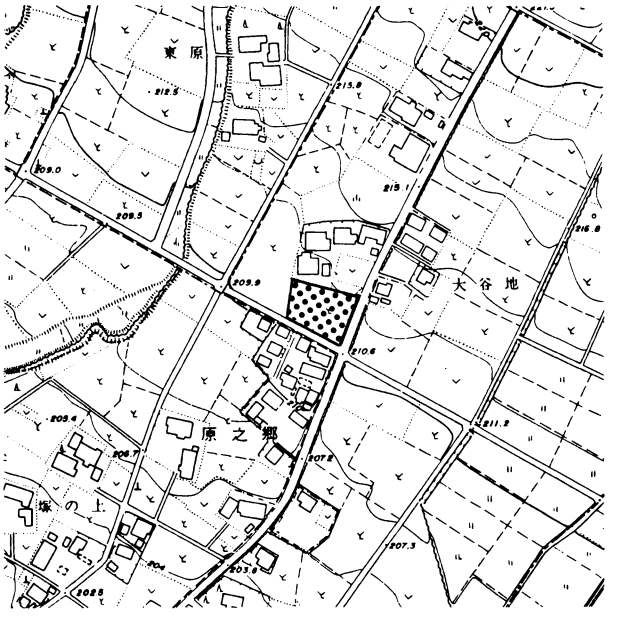
共同住宅建設

調査期間

平成14年６月17日

開発面積　　1,294㎡

調査面積　　168㎡



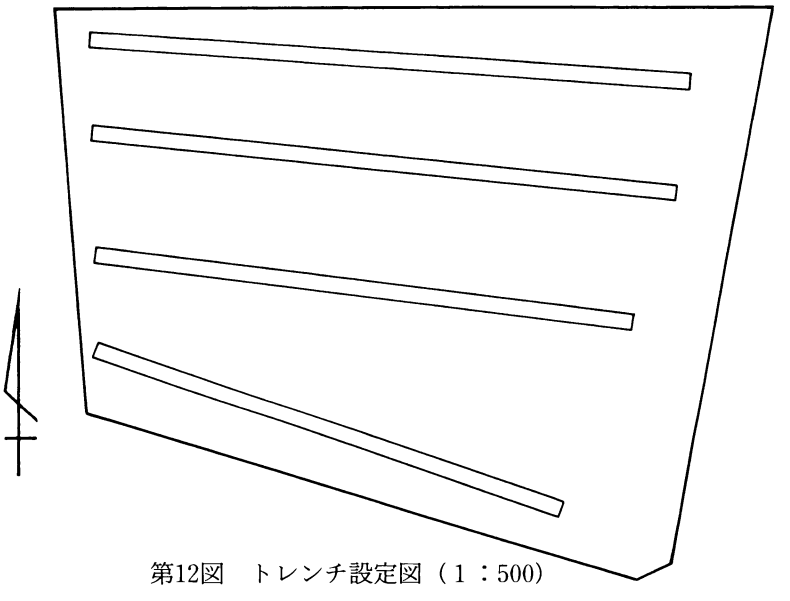
第11図　原之郷大谷地

調査の経緯

調査地は周知の遺跡地ではないが、先の試掘調査同様、現地踏査を行った際に土器片が確認されたことから試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて４本のトレンチを設定した。その結果、調査地は南西に緩やかに傾斜しており、中央から南西にかけて現地表下約80cmにAs-Bの堆積が確認された。As-B下に水田土壌状の黒色粘質土層が確認されたが、断面を精査したものの明瞭な畦畔を確認することはできなかった。充分な保護層も得られることから、開発に際して文化財保護として支障はないと判断した。



第12図　トレンチ設定図（１：500）

6．小沢鍛冶原遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字小沢字鍛冶原520番１外

調査原因

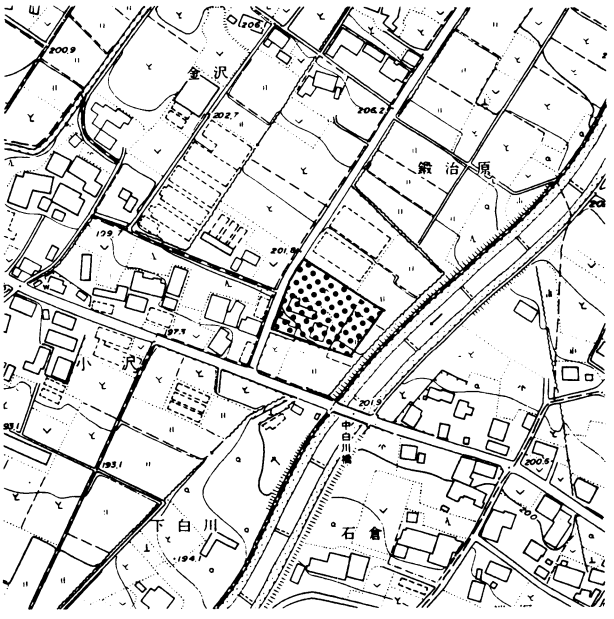
共同住宅建設

調査期間

平成14年６月20日

開発面積　　2,563m²

調査面積　　174m²



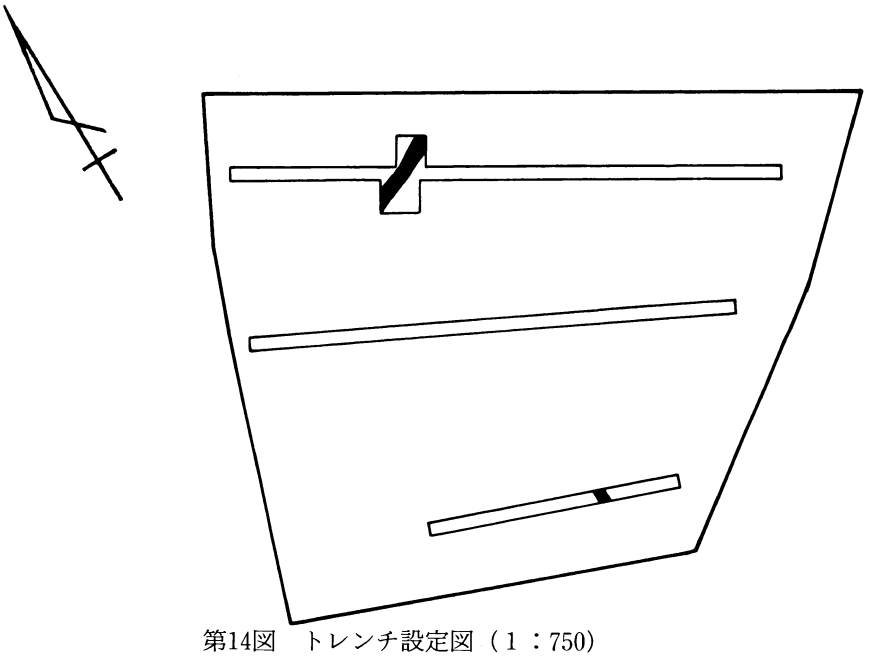
第13図　小沢鍛冶原遺跡

調査の経緯

調査地は周知の遺跡地ではなかったが、周知の遺跡である小沢的場遺跡（平成９年度調査、平安時代住居跡）の近辺であるため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて３本のトレンチを設定した。その結果、現地表下約90cm掘り下げたところで、最北と最南のトレンチから溝跡が確認された。溝の覆土は As-C を含む黒褐色土である。遺物の出土は見られなかった。この結果をもとに開発業者と度重なる協議をしたところ、遺構確認面までに充分な保護層が得られることから、工事時に立会調査を行う事で合意を得て「小沢鍛冶原遺跡の保存に関する協定書」を締結した。その後、工事時の立会調査を行った。



第14図　トレンチ設定図（１：750）

7．小暮寺間

所在地

勢多郡富士見村大字小暮字寺間576番２外

調査原因

宅地分譲用地造成

調査期間

平成14年７月22日

開発面積　　1,000㎡

調査面積　　56㎡

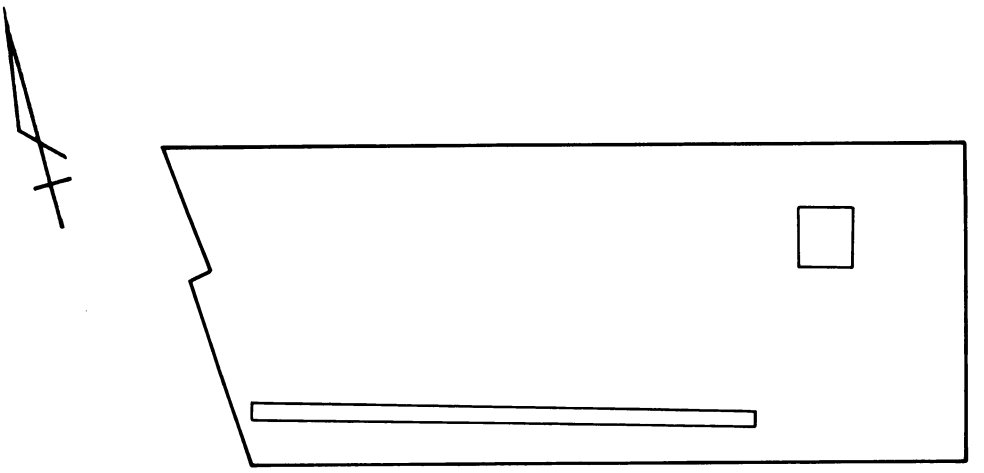
第15図　小暮寺間

調査の経緯

調査地は周知の遺跡である寺間遺跡（平成５年度調査、縄文時代前期住居跡、奈良・平安時代住居跡）の北方にあたるため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて２本のトレンチを設定した。その結果、明確な遺構・遺物は検出されなかった。よって、開発に際して文化財保護として支障はないと判断した。



第16図　トレンチ設定図（１：500）

8．時沢上里遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字時沢字上里2238番

調査原因

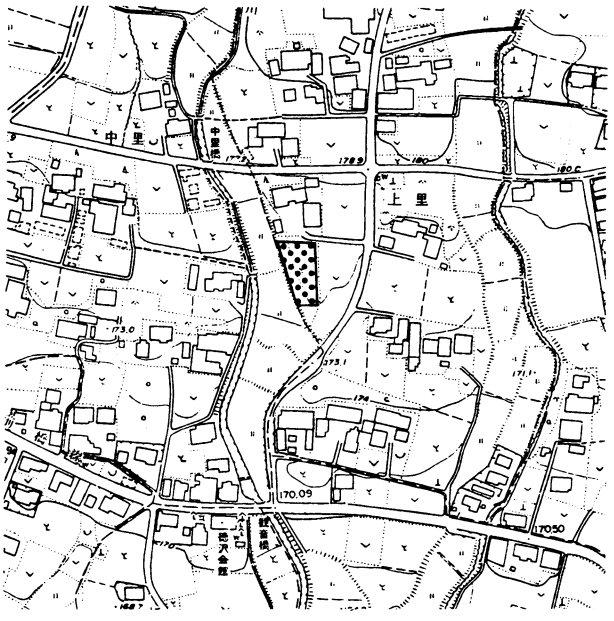
共同住宅建設

調査期間

平成14年７月23日

開発面積　988m²

調査面積　178m²



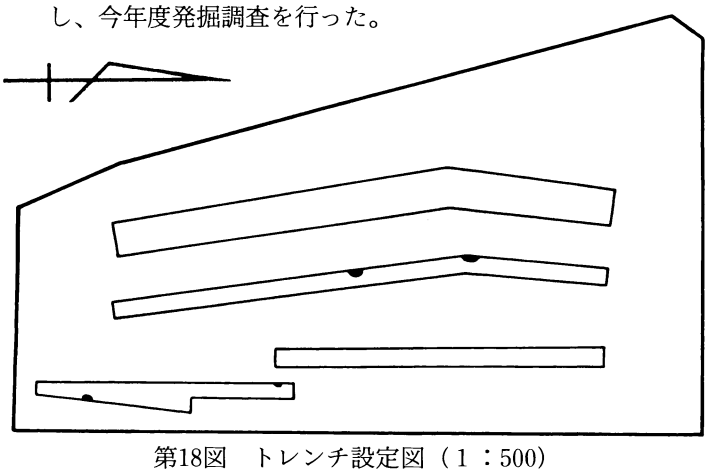
第17図　時沢上里遺跡

調査の経緯

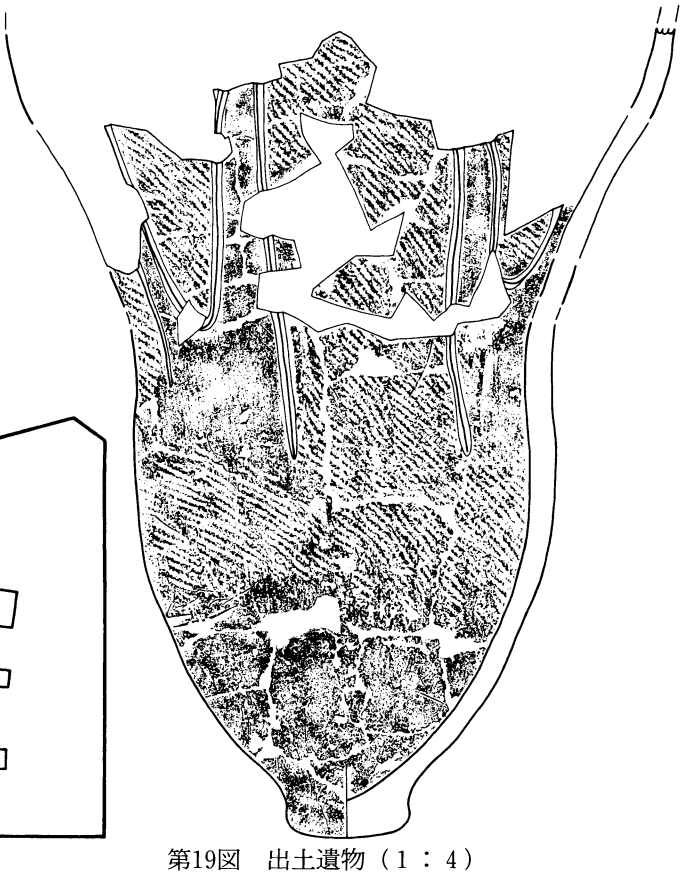
調査地は、平成13年度に一級河川観音川の河川改修に伴い発掘調査を行った時沢中里遺跡（縄文時代後期遺物包含層）の左岸台地上にあたるため、該期集落の存在が予想された。このため、開発に先立ち、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて４本のトレンチを設定した。その結果、調査地は著しい攪乱が及んでいるものの、現地表下約40cmから少量の遺物が確認された。また、第２トレンチから加曽利ＥⅣ式に比定される深鉢が確認された。この結果をもとに、事業者と協議したところ、南側は充分な保護層が得られるよう盛り土による現状保存を行い、北側の掘削される範囲内は、記録保存を目的とした発掘調査を行うことで合意し、今年度発掘調査を行った。



第18図　トレンチ設定図（１：500）



第19図　出土遺物（１：４）

9．小暮六万坊

所在地

勢多郡富士見村大字小暮字六万坊１番

調査原因

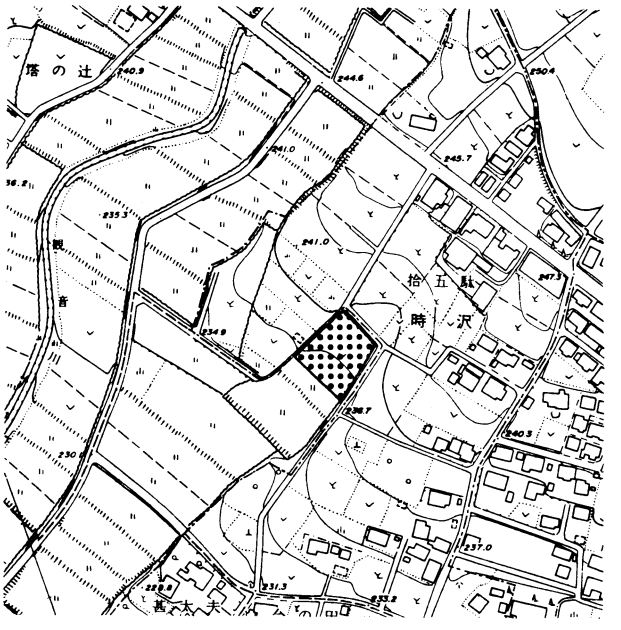
宅地分譲用地造成

調査期間

平成14年８月９日

開発面積　　1,480㎡

調査面積　　168㎡



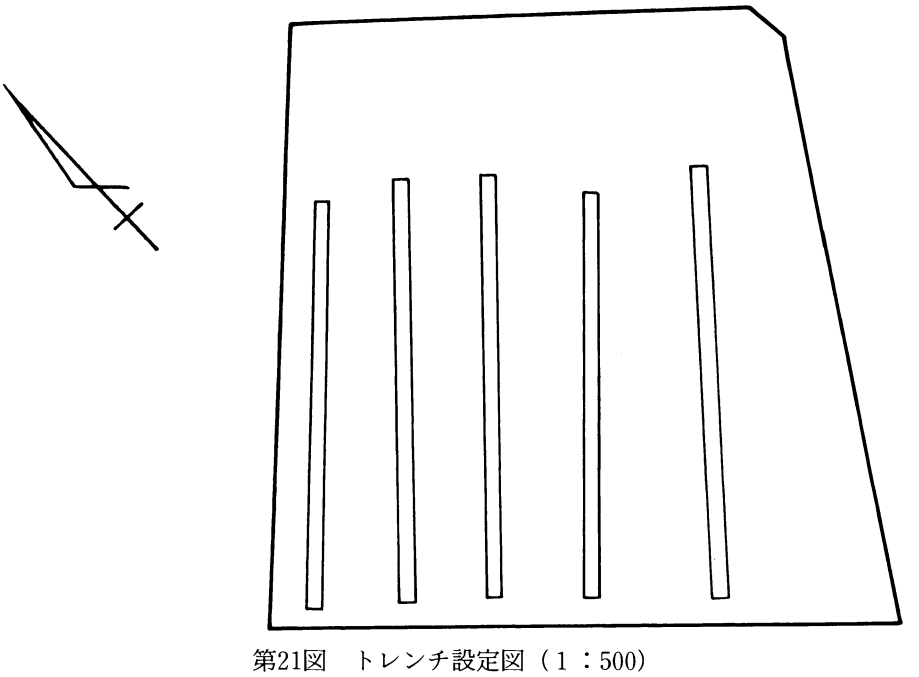
第20図　小暮六万坊

調査の経緯

調査地は周知の遺跡ではないが、南方に時沢甚太夫遺跡、北方に小暮北所替戸遺跡が所在しているため、試掘調査を行った。

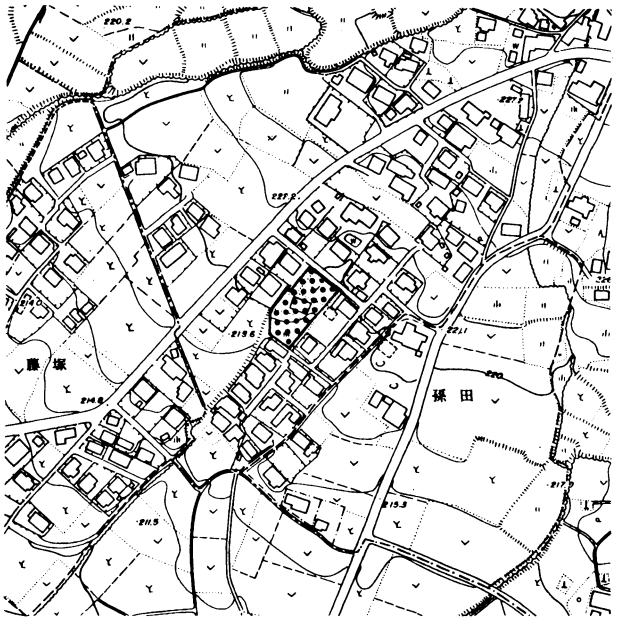
調査の結果

調査地の地形に合わせて、５本のトレンチを設定した。その結果、顕著な遺構・遺物共に検出されなかった。よって、開発に際して文化財保護として支障はないと判断した。



第21図　トレンチ設定図（１：500）

10. 小暮辻清塚



第22図　小暮辻清塚

所在地

勢多郡富士見村大字小暮字辻清塚481番１外

調査原因

共同住宅建設

調査期間

平成14年８月29日

開発面積　　1,234㎡

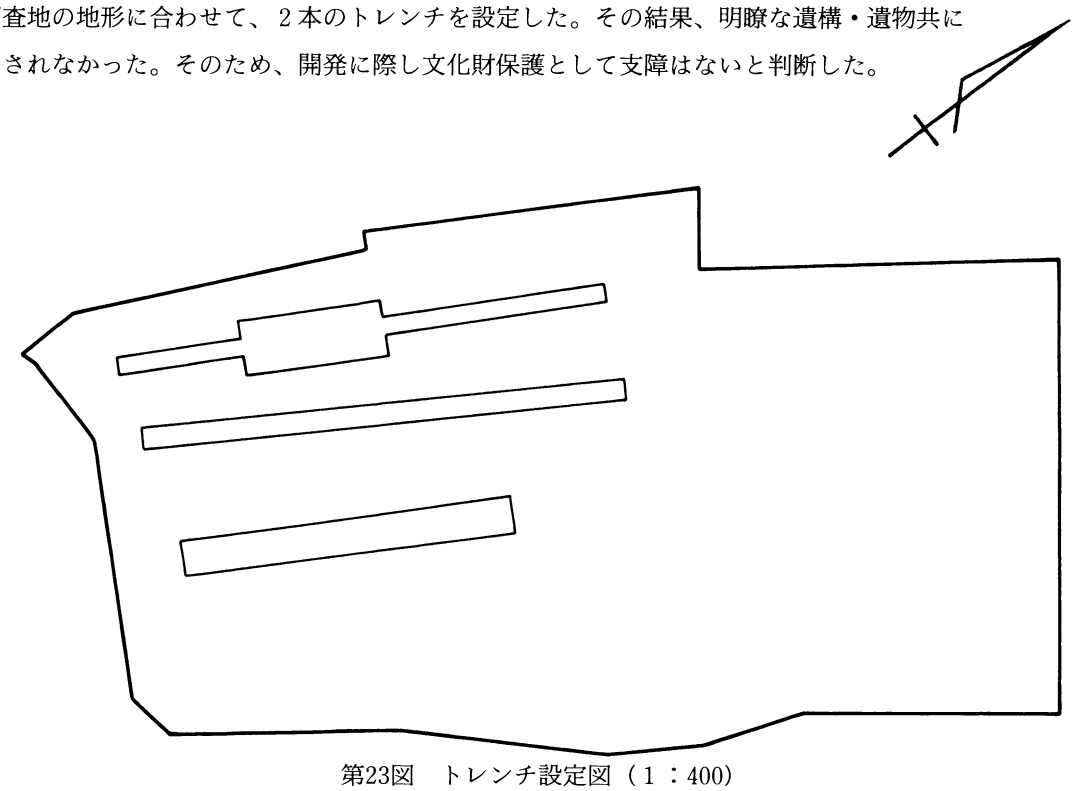
調査面積　　119㎡

調査の経緯

調査地は、周知の遺跡地である小暮清塚遺跡の南方に所在し、遺跡地の可能性が高いため開発に先立ち試掘調査を行った。

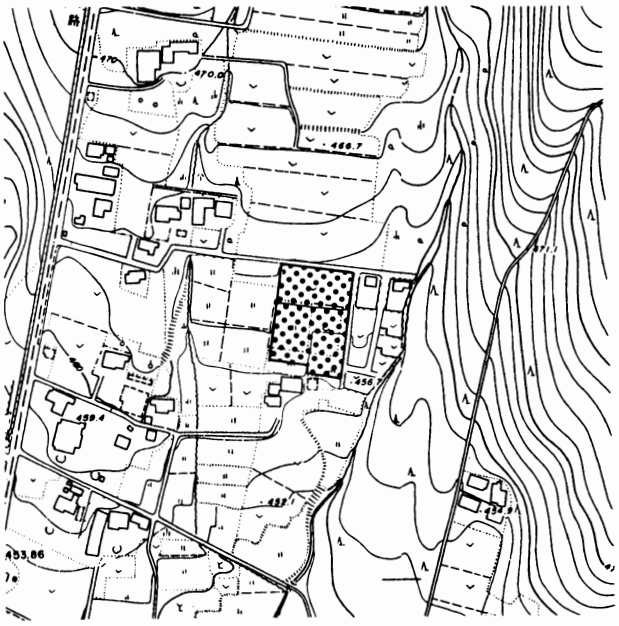
調査の結果

調査地の地形に合わせて、２本のトレンチを設定した。その結果、明瞭な遺構・遺物共に検出されなかった。そのため、開発に際し文化財保護として支障はないと判断した。



第23図　トレンチ設定図（１：400）

11. 赤城山竜ノ口



第24図　赤城山竜ノ口

所在地

勢多郡富士見村大字赤城山字竜ノ口1742番 4

調査原因

住宅展示場

調査期間

平成14年10月30・31日

開発面積　　3,391㎡

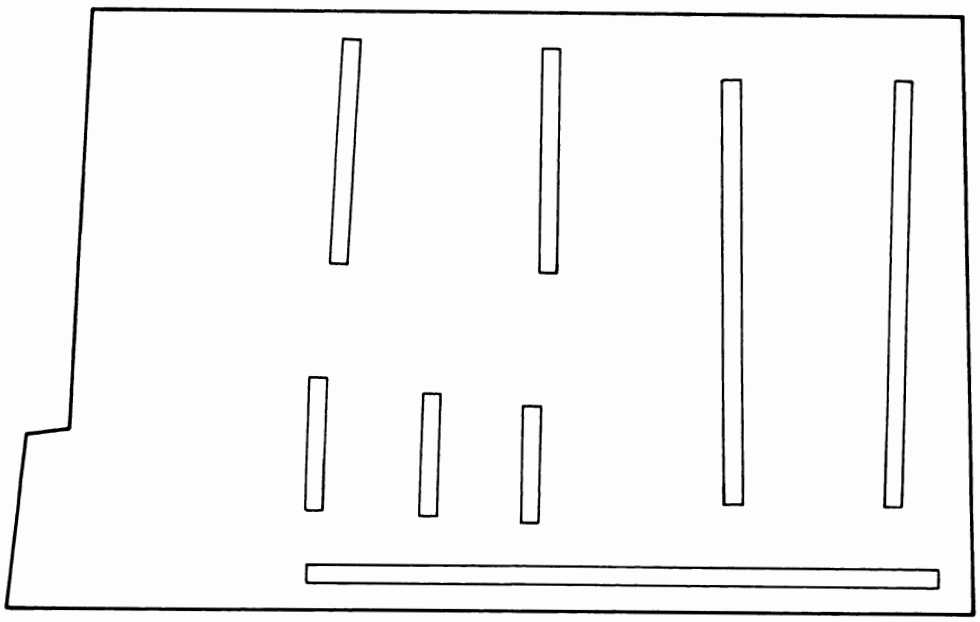
調査面積　　278㎡

調査の経緯

調査地は周知の遺跡である小暮東新山遺跡の北方に所在するため、開発に先立ち試掘調査を行った。

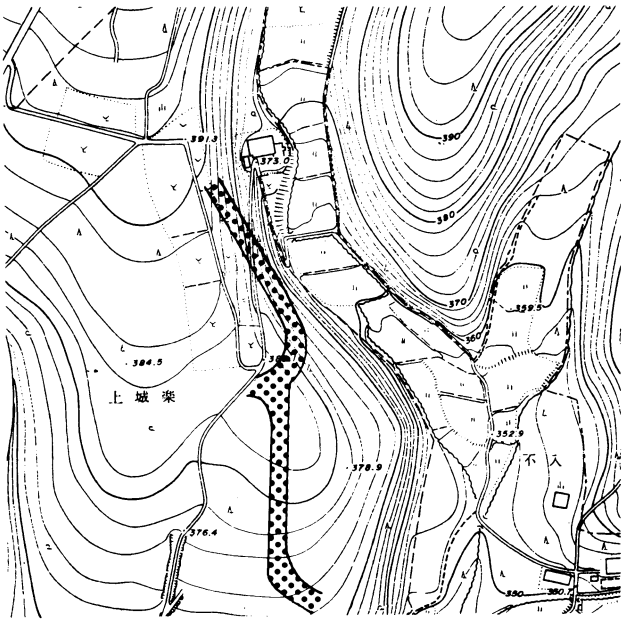
調査の結果

調査地の地形に合わせて、8本のトレンチを設定した。その結果、明瞭な遺構・遺物ともに検出されなかった。よって、開発に際し文化財保護として支障はないと判断した。



第25図　トレンチ設定図（1：600）

12. 石井上城楽遺跡



第26図　石井上城楽遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字石井字上城楽

調査原因

県営防災ダムに係わる取付道路

調査期間

平成15年２月３～６日

開発面積　　3,500m²

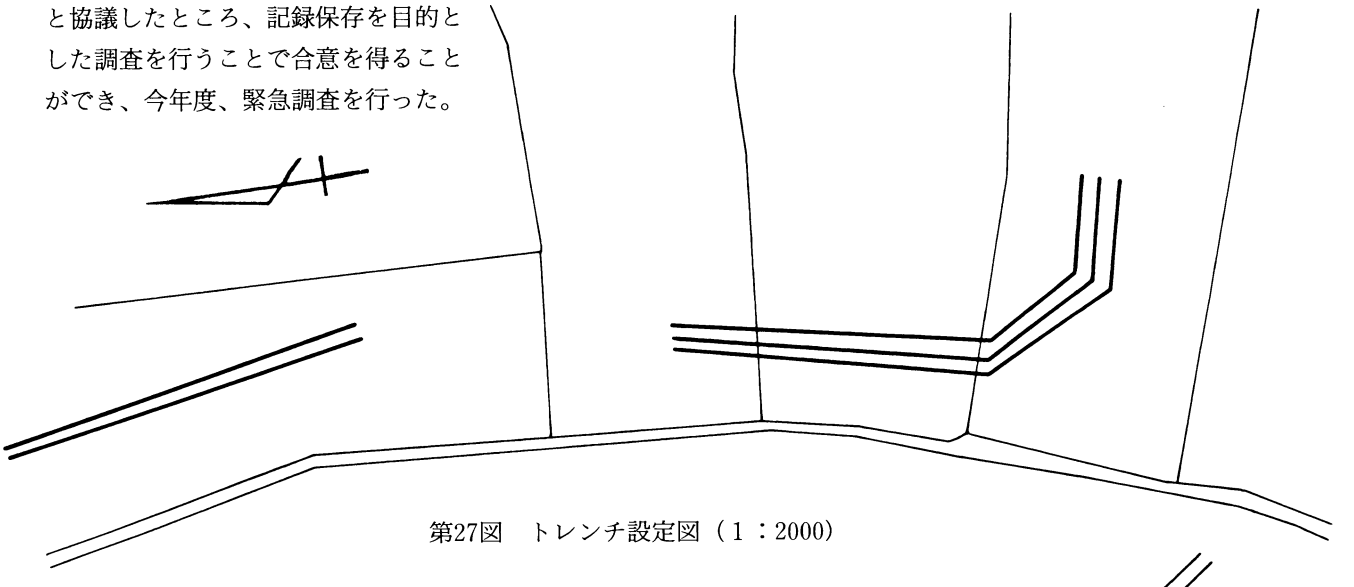
調査面積　　975m²

調査の経緯

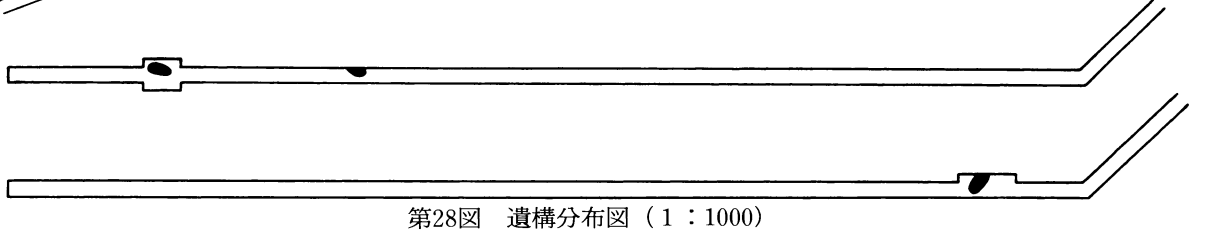
調査地は周知の遺跡である石井柴山遺跡（平成８年度調査、縄文時代陥し穴、近世炭窯）と近接し、また地形的に縄文時代陥し穴が所在している可能性が高いため、開発に先立ち試掘調査を実施した。

調査の結果

開発内容に合わせて南北を基調とするトレンチを５本設定した。北側の２本のトレンチからは遺構が検出されなかったが、南側の２本のトレンチから縄文時代の陥し穴が３基検出された。この結果をもとに事業者と協議したところ、記録保存を目的とした調査を行うことで合意を得ることができ、今年度、緊急調査を行った。



第27図　トレンチ設定図（１：2000）



第28図　遺構分布図（１：1000）

13. 小暮虱久保

所在地

勢多郡富士見村大字小暮字虱久保1850番１外

調査原因

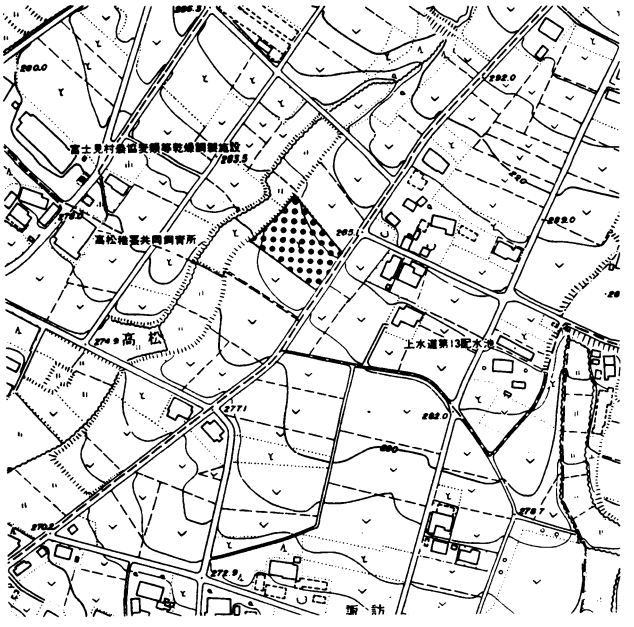
宅地分譲用地造成

調査期間

平成15年２月７日

開発面積　　1,827㎡

調査面積　　393㎡



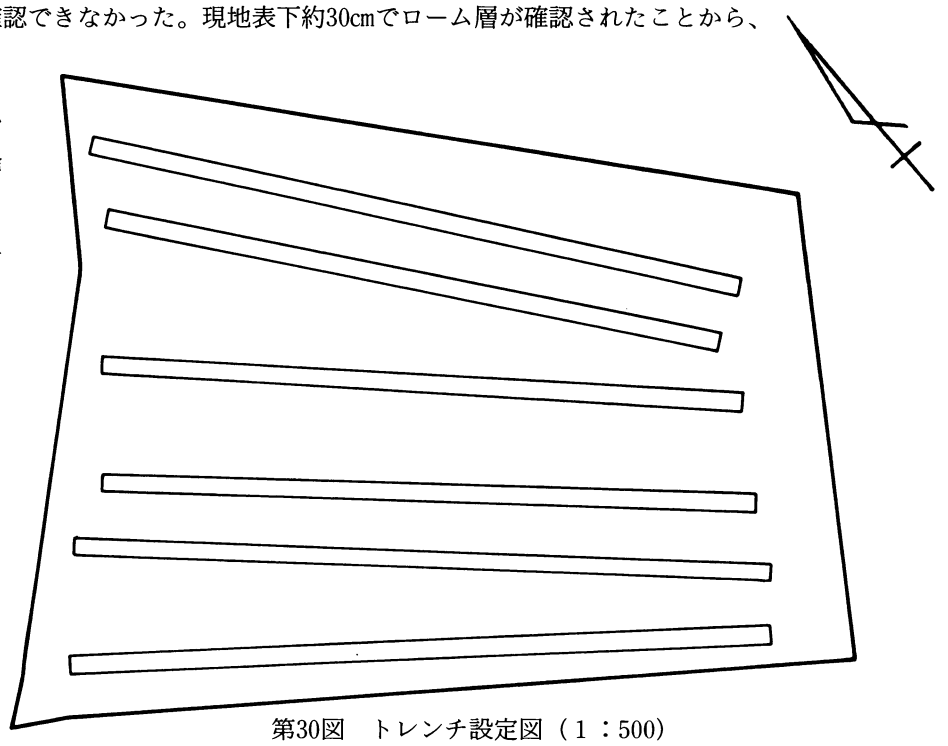
第29図　小暮虱久保

調査の経緯

調査地は、平成13年度試掘調査により確認された小暮諏訪遺跡（縄文時代前期土坑）に近接しており、該期の遺跡が所在する可能性が高いため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて６本のトレンチを設定した。その結果、若干の縄文時代前期の土器片が確認されたが、明瞭な遺構は確認できなかった。現地表下約30cmでローム層が確認されたことから、開発地は後世に削土された可能性が高いと思われる。よって、開発に際して文化財保護として支障はないと判断した。



第30図　トレンチ設定図（１：500）

14. 小暮孫田Ｂ遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字小暮字孫田526外

調査原因

宅地分譲用地造成

調査期間

平成15年３月19・20日

開発面積　　2,307㎡

調査面積　　173㎡

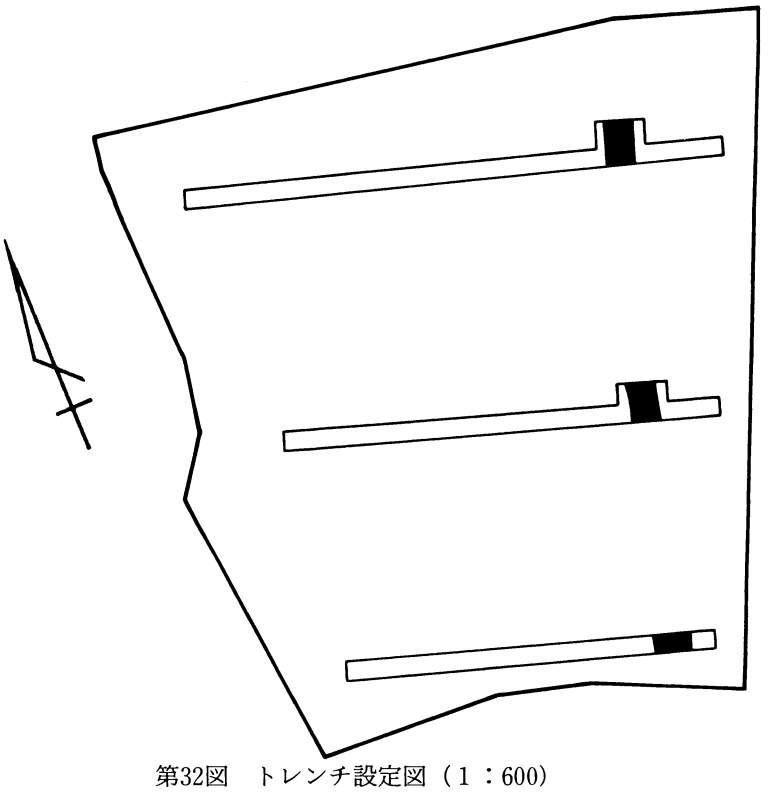
第31図　小暮孫田Ｂ遺跡

調査の経緯

調査地は、周知の遺跡である孫田遺跡（平成５年度調査、縄文時代前期土坑、平安時代道跡）、寺間遺跡（平成５年度調査、縄文時代前期住居跡、奈良・平安時代住居跡）に近接しているため開発に先立ち試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の地形に合わせて、３本のトレンチを設定した。その結果、現地表下約80cm～90cmにかけて１条の溝跡が検出された。溝跡の詳細な時期については遺物の出土がなかったため不明であるが、覆土上層にAs-Ｂの一次堆積を確認したことから平安時代後期まで機能していたと考えられる。埋蔵文化財の保護については現在協議中である。



第32図　トレンチ設定図（１：600）

原之郷西原　トレンチ掘削状況

原之郷白川Ｂ遺跡　トレンチ掘削状況

石井下白川　トレンチ掘削状況

原之郷大谷地　トレンチ掘削状況

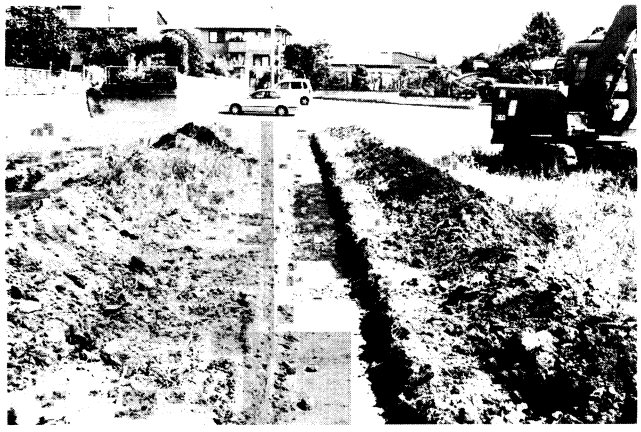
原之郷大谷地　トレンチ掘削状況

小沢鍛冶原遺跡　トレンチ掘削状況

小暮寺間　トレンチ掘削状況

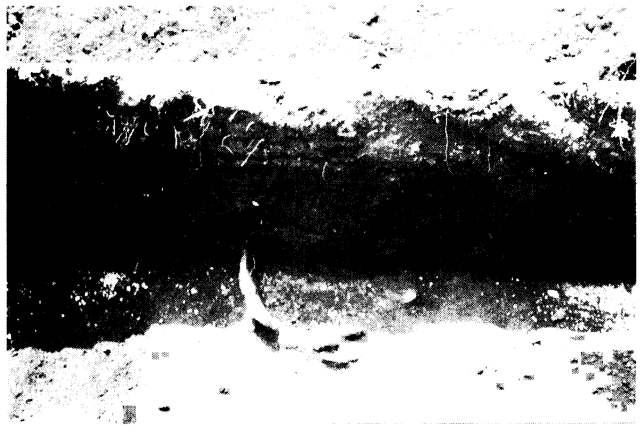
小暮六万坊　トレンチ掘削状況

PL 2



小暮辻清塚　トレンチ掘削状況

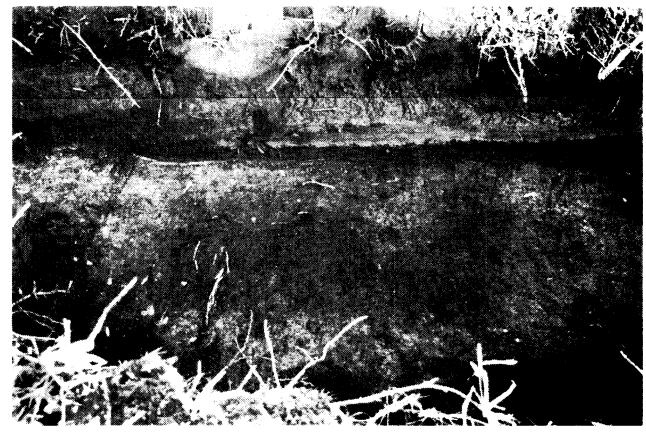
時沢上里遺跡　トレンチ掘削状況



時沢上里遺跡　遺物出土状況

赤城山竜ノ口　トレンチ掘削状況

石井上城楽遺跡　トレンチ掘削状況



石井上城楽遺跡　遺構検出状況

小暮虱久保　トレンチ掘削状況

小暮孫田Ｂ遺跡　トレンチ掘削状況

平成14年度
村 内 遺 跡

平成15年 3 月24日印刷
平成15年 3 月28日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話（027）288-6111

印　　刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社